

「災害の記憶を繋ぐ(仮)」集についての中間報告（2021年7月末現在）

生涯学習委員会

厳しい猛暑が続く中で、台風襲来の時期ともなりました。生涯学習委員会の新企画である「災害の記憶を繋ぐ(仮)」集のための原稿募集開始から約半年たちましたので現状をお知らせ致します。おかげさまで、会員個人からだけでなく一部の支部からも原稿をいただいています。

1. 会員個人から

記憶に新しい**東日本大震災**に関わる原稿が多いですが、実体験のみならず、避難所経験、さらには今後の防災への取組に関わる提言を含む原稿が寄せられています。

津波の記念碑など**地域に残る災害の記憶**の原稿も寄せられています。また客員論説委員として執筆された災害にまつわる新聞の記事の再掲許可もいただきました。

2. 支部から

仙台支部から

東日本大震災直後に発行された「**支部便り『けやき』 No.3 震災特別号**」の中で再掲許可をいただいた原稿を頂きました。さらに、当時仙台支部所属であった会員が**GWJ ジュネーブ大会で発表**された原稿も頂きました。被災直後の大変な状況が詳細にわかり、提言も含まれています。

神戸支部から

阪神・淡路大震災から十年たった時点で発行された「**その後の十年**」の中で再掲許可をいただいた原稿を頂きました。十年経た段階でもまだ被災体験が生々しく、復興には程遠い状況が実感できると共に、提言も含まれています。

3. 『災害を語る会』記録集から

生涯学習委員会の前身である新規事業委員会発行の『**災害を語る会**』記録集については、全原稿の再掲許可をいただきました。こちらは、各地の地震の実体験から被災者支援、復興のための人材育成、実体験に基づく自宅避難のためのアドバイス、大水害の実体験から被災者インタビュー、行政の取組までが含まれています。

4. その他

東日本大震災から3年後に理事会代表者が茨城支部を訪問した記事を茨城支部よりいただきました。

日本のみならず世界各地で災害が頻発し、かつ被害が甚大化しています。新型コロナウイルス禍はまだまだ収束には程遠い状況です。平時からのコミュニティへの女性の参画の必要性が国だけでなく地方自治体レベルでも防災の面からもようやく認識され始めてきた段階ですが、被災地であっても災害体験の伝承の難しさがあることも徐々に指摘されるようになってきました。

災害体験の伝承および今後の防災・減災に資する情報を広く知らせるために、全国各地でいろいろな災害を経験あるいは伝承されている皆様から、提言も含め原稿をお寄せいただきたく、引き続きご協力よろしくお願い致します。

また、各支部で体験した災害の報告を支部だよりや会報に載せられた支部も多いと思います。それを再掲することも考えておりますので、そのような原稿もお寄せいただけますと大変ありがたいです。再掲可能な原稿をお持ちの支部からのご連絡もお待ちしております。